

全国高校生ESD学び合いフォーラム

ESD学びあいフォーラム

第2回 全国ユース環境活動発表大会は、2日間行われました。オープニングとなる初日は、国連大学のレセプションホールで「全国高校生ESD学び合いフォーラム」が行われました。参加者は、高校生、大学生、社会人。一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト(GiFT)専務理事の辰野まどか氏の進行で、高校生は同じ学校の生徒たちと一緒にならないように着席し、初めは緊張気味だった高校生もすぐに打ち解け、全ての参加者が一体となったフォーラムになり、大いに盛り上がりました。



テーマ 持続可能な未来のあり方を考える

プログラム 基調講演、ワークショップ

◇基調講演 キリン株式会社CSV本部 大北博一氏「社会課題への取組みと企業価値の創造」

◇ワークショップ 1) 事例紹介 社会人ゲスト 株式会社東京・森と市庭 菅原和利氏

2) ワークショップ「2030」(2030年に向けて)

基調講演

社会課題への取組みと企業価値の創造

キリン株式会社CSV本部 大北博一氏

キリンでは世界での社会課題、日本特有の社会課題について取り組んでいき、社会的な価値を創り出しながら、会社として利益も上げていく事をコンセプトとして、CSV活動に取り組んでいます。CSVと同じ考え方は近江商人の「三方よし」で、以前から日本に有った考え方です。そこで事業に近い社会課題について11の課題を設け、特に力を入れて取り組んでいこうと決めたのが「健康」、「地域社会への貢献」、「環境」。同時に「わくわくする価値をお客様と一緒に創って行きたい。」ということをやキーポイントにしています。「環境」については長期環境ビジョンを設け、「2050年の資源循環100%の社会」実現に向けて、水資源、生物資源、地球温暖化対策、容器包装などに関する先行的な取り組みを進めています。環境問題は、環境に関する仕事をしている人だけでなく、多様な職種の人たちと一緒に取り組んでいくことが大切です。



事例紹介

東京奥多摩におけるまちづくり ～森林再生を通じての地域活性について～

株式会社東京・森と市庭 菅原和利氏

みなさんと同じくらいのとき、将来について悩んでいたことがあり、自然が好きだったので自然のことや環境活動をやりたいと思い大学に進学しました。その後、東京の奥多摩というフィールドを知ることになり、もう長い付き合いになりました。テーマの2030年ですが、ひとりひとりが可能性に気付いて行動している社会になっているでしょう。地域の一員として多くのことを学べるようになった現在、地域が未来を目指すフィールドになっていって欲しいとの思いがあります。起業することになり、まちに94%もある森林資源をどう活用するかについて考えていこうとなり、林業を通して木と森をもっと良くしていく取り組みに就くことになりました。継続して活動していくことでいろいろな繋がりもでき、その結果、成果も生まれてくるものです。



<この取り組みを取材した大学生より>

東京大学大学院1年 原智美さん

菅原さんへの取材を通じて、「東京の森」を中心にこれからの働き方やライフスタイルなどを持続可能性という視点から未来を見据えて考えている所がとても魅力的だと思いました。私も森から癒しやパワーを得ることができたのでそれを忘れないで、未来を見つめて1歩を踏み出していけるような大人になりたいと感じました。

